浙江大学侨福建设基金资助

日中語彙の比較語彙論的研究

—基幹語彙を対象としての試み —

王春 著

浙江大學出版社

王 春 著

日中語彙の比較語彙論的研究

── 基幹語彙を対象としての試み ──

浙江大學出版社

图书在版编目(CIP)数据

日中词汇的比较词汇论研究/王春著.—杭州:浙江大学出版社,2004.6
ISBN 7-308-03692-8

Ⅰ.日... Ⅱ.王... Ⅲ.词汇-对比研究-日语、汉语 Ⅳ.H363

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2004)第 046287 号

出版发行 浙江大学出版社
(杭州浙大路 38 号 邮政编码 310027)
(E-mail:zupress@mail.hz.zj.cn)
(网址:http://www.zjupress.com)
责任编辑 樊晓燕
排　　版 浙江大学出版社电脑排版中心
印　　刷 浙江大学印刷厂
开　　本 850mm×1168mm 1/32
印　　张 14.5
字　　数 350 千
版 印 次 2004 年 6 月第 1 版 2004 年 6 月第 1 次印刷
印　　数 0001—1000
书　　号 ISBN 7-308-03692-8/H·271
定　　价 50.00 元

前書き

田島毓堂氏によって提唱されている「比較語彙論」は、従來の語彙研究の領域に全く新しい構想のもとに出発した、新しい学問分野である。その理論に基づいて二言語語彙の比較研究の実践として、本研究は試みられたものである。

「比較語彙論」の方法によって、語彙の集団的規範の側面から日中語彙の全体像を見ることがこの研究の目的である。その対象語彙として、日本語語彙は「日本語教育基本語彙七種比較対照表」から二種以上の語彙表に共通する3135語、中国語語彙は「外国人実用漢語常用詞表」の3040語を採用し、それぞれ基干語彙的なものとして選定し、個々の語に意味分野のコードを付けた上で、いかなる意味分野別語彙構造を持つかを検討し、その特徴について記述し、さらにその要因について分析を試みたものである。

その基本になる、コード付けの枠組みについては『分類語彙表』に依拠しつつ、比較語彙論的研究のために他言語の言葉にコードを付ける際、均衡のとれたコード付けのために設定された「語素コード」の枠組みによってコード付けを行うものであるが、中国語の単語に付けるにあたり、いかなる単位を設定すべきかについて種々考察し、漢字単位でもなく、単語単位でもなく中国語の語素単位が適切であることを確認した。この結果として多義語の扱いを含めて選定された基干語彙それぞれについて語素コードが付与された。

そして、語彙分析のために最も有効であると考えられる意味構造分析法、すなわち、それぞれの語彙の意味分野別構造が、どの部分の密度が濃く、どこが希薄であるか、また、いかなる構造上の特徴を持つかを明らかにしようとする方法によって、グループ別・コード別に作成された一覧表をもとに、カイ自乗検定を施した上、それぞれ

0.1%ないし10%以下の危険率で出現に有意差ありと認められた項目について、項目ごとに詳細に述べ、同時にそうなっている要因についても分析を試みた。

日中同形語についても検討している。同形で、同じ意味のもの、一部の意味が重なるもの、意味の異なるものに分けて、それぞれ一覧表を作り、中国語にない日本語の漢字語を表示する。

結びにおいて、拙著で、日本語・中国語が均衡のとれた基準においてコード付けが出來ることを確認したこと、それによって、語彙の比較研究に道の開けたことを述べ、同時に、文化比較に有効であることを主張し、今後の課題を述べている。

個々の語の研究が古来盛んであったのに対し、語彙を総体として扱う研究の未開性・不毛性は指摘されることすらまれであり、言語研究者の間でもその理解は極めて乏しかった。従來、語彙研究は個々の語の研究(＝語誌)でなければ、辞書の研究に代表され、語彙を文字通りの語の集合としての語彙の扱うは、その必要性が認識されなかったことからくる方法の未開発のため、ほとんどなされてこなかった。比較語彙研究はこれに突破口を開くものである。従來の語彙研究の領域に全く新しい構想のもとに出発した、新しい学問分野が道入されたのである。

王　春

2004年6月

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

前　言

由田岛毓堂先生开创提出的“比较词汇论”和以往的词汇研究相比，属全新设想下崭新的学术领域。根据此理论，作为对日中词汇的比较研究的实践，进行了本研究。

用“比较词汇论”的方法，从词汇的整体规范方面来考察日中词汇的整体构造是研究的主要目的。作为具体研究的对象词汇，日语词汇从《日语教育基本词汇七种比较对照表》里选择了3135个词，选择的标准是出现在前述两种以上的词汇表里的词。中文词汇采用了《外国人实用汉语常用词表》的3040个词，把它们当作各自的基干词汇，给各个词标注意义编码、分析研究它们各自以意义领域进行分类的词汇构造，记述特征，并分析原因。

此研究的基础作业标注意义编码的依据是“分类词汇表”。在和其它语言进行比较时，编码基准的统一是比较词汇研究的关键，为此而设定的基准是“语素编号”。对中文词汇进行编码标注作业时，在遵循以上基准的同时，充分考虑了中文的特点，确立了以中文“语素”为单位进行标注。由此完成了包括多义词在内的基干词汇的标注意义编码的作业。

按照词汇分析最有效的意义构造分析法，即各个词汇的意义领域构造，词汇分布在各个领域的多少，构造上的特征等，在完成分组意义编码、单个编码制作的一览表的基础上，进一步进行了自乘检定。对出现有意差的项目，逐个进行详细的叙述，并分析了其形成原因。

作为此研究的应用，本文还探讨了日中同形词、包括同形同义、同形异义、一部分意义差异的日中同形词以及中文中没有的日语汉语词汇，制作了各个意义领域一览表，并考察分析。

最后部分，叙述了并确认了日中成功地用同一基准均衡地标注了意义编码。据此开拓了日中比较词汇研究的新途径。并实践性地说明了比较词汇论方法对异文化比较研究的可行性。进一步提出了今后的

课题。

词的汇合意义的词汇研究，和语言学其它领域纯粹着眼语言内部问题，或者单纯解决语言形式问题就可以了结的不同，因为把握词汇整体本身即非易事，何况还有很多单凭语言内部事实所不能解决的问题。这也是词汇所特有的性质。即词汇和语言外事实密切关联。词汇研究不能设想脱离造就那种语言的文化，反之也然，两者密切相关。音韵和文法构造语言的框架，它们通过词汇完成语言表现，所以语言研究决不能仅局限于音韵和文法，只有待词汇研究的合流，才能展现语言全貌。决不能把语言的研究局限于语言内部的研究，倘若那样就不算完整。不寻求语言与造就它的文化、风俗、习惯的关系，就挖掘不出其本质。比较词汇研究的根本目的就是通过语言揭示文化的根底，为异文化的比较、理解开拓新的途径。

我们知道，长期以来，相对于作为词汇组成单位的各个单词研究的进步领先和众多成果，于词汇，即词的汇合的研究，特别是把一种语言的词汇整体作为研究对象的研究，一直空白，不被顾及。专门的语言研究者对此的理解也较模糊。说到词汇研究不是对单个词的研究（＝词源），就是指词典编撰等。从词汇的整体规范方面即词的集合的角度的认识，因为方法的未开发，几乎没有被涉及。“比较词汇论”的研究开始把这种词的汇合作为研究对象，弥补了词汇研究长期以来的片面不全，在词汇研究领域打开了突破口，导入了崭新的学问领域。

王　春

2004 年 6 月

目　次

第一章　序　論 …… (1)
1・1　はじめに …… (1)
1・2　目的 …… (4)
1・3　方法 …… (8)
1・4　意味分類の枠組み …… (13)
1・5　基礎作業に主に使う辞書 …… (13)

第二章　意味分野別日中基幹語彙対照表 …… (14)
2・1　資料について …… (15)
2・2　意味分類の基準 …… (18)
2・3　意味コード付け作業の基準について …… (20)
2・4　「意味分野別日中基幹語彙対照表」 …… (32)
2・5　纏め …… (32)

第三章　語素と語素コード …… (34)
3・1　問題提起 …… (34)
3・2　中国語の“語素” …… (37)
3・3　中国語の“語素”認定とコード付けの試み …… (49)
3・4　日中漢字語素の対照 …… (54)
3・5　纏め …… (57)

第四章　意味構造分析 …… (59)
4・1　目標 …… (59)
4・2　グループ別意味構造分析法 …… (60)

4・3　コード別意味構造分析法……（128）
4・4　纏め……（147）

第五章　日中基幹語彙における同形語……（156）
5・1　手順……（156）
5・2　日中基幹語彙における同形語……（157）
5・3　中国語にない日本語の漢字語……（171）
5・4　意味分類考察……（178）
5・5　纏め……（185）

第六章　むすびにかえて……（187）

参考文献……（195）

付録……（201）
①『意味分野別日中基幹語彙対照表』……（201）
②『中国語語素表』……（313）
③『日中漢字語素対照表』……（383）

第一章　序　論

1・1　はじめに

言語の研究・教育を進めるためには、外国語との比較研究が有力な手段である。ある言語における普遍的性格や特殊な性格は、外国語との比較によって明らかにされるものである。日本語と中国語は形態の異なる言語でありながら、同じ漢字を使っていること、文化の面で諸々の繋がりがあることから、言語(音韻、文法、意味)の各方面の中で特に語彙論の分野で混乱を招致し易い。例えば、日本語の「勉強」「便宜」「天井」の意味と中国語の「勉强」「便宜」「天井」の意味とはズレ・不一致がある。このような例はほかにも多く見られる。そして、指示詞にコソア(近称、中称、遠称)という三分法をもつ日本語を軸にして考えてみると、中国語には二、つまり近称には「这」遠称には「那」を用いる二分法である。親族関係語彙を見ると、日本語より中国語の方がもっと複雑になっている、数的形式を見ても、問題になるのが察知できる。日本語の「耳かき」「つまようじ(爪楊枝・爪楊子)」と中国語の「耳挖儿」「牙签儿」のような語にはあまり体系性が見られない。造語法から見ると「耳かき」という語は「耳＋かき」とすぐ分析できる結合契機のある透明な語である。しかし「つまようじ」は一般の日本人には不透明な語である。「つまようじ(爪楊枝・爪楊子)」はむかし歯ブラシとして使われた「楊枝」(楊柳の枝で作られた)という語を基にして造られた語で、「こ(小)楊枝」とも言われる。「耳かき」とは完全に異なる形成過程をもつ語である。いちごなどの小さい食べ物を突き刺すときにも

用いるが、歯のあいだにはさまった物をとったりするときに使うことが多い。中国語の「耳挖儿」「牙签儿」にも共通成分は見られない(一方は動詞「ホル」、他方は名詞の「签」である)が、「耳」と「歯」が用いられているので、日本語の「耳かき」と「つまようじ」よりは透明であり、相互の距離は近いと言える。また、語彙構造の角度から見ると中国語における形容語の占める割合より、日本語の形容語率は小さい(『語彙の研究と教育(下)』国立国語研究所1985)。更に、一定の意味領域において、日本語の語彙が豊富であるのに対して、中国語には、それが貧弱であったかもしれない。その反対の場合も同じである。このように語彙論の分野で日中二言語をめぐって、個々の語の意味、造語法、語構成、語彙構造、語彙の意味分類など数多くの問題がある。一方、日中二言語間の語彙についての比較研究は一部の分野において行われているのが現状で、語彙の集団的規範の側面からの研究はまだほとんど行われていない。二言語語彙の比較研究において「比較語彙論」[①]から出発する研究、つまり、語彙

---

① 田島毓堂「比較語彙論の構想—異文化比較研究のために—」(『国際開発研究フオーラム2 1995)

「比較語彙論」は、共時的に他言語間に適用されると同時に、通時的には同じ言語に適用して語彙史の記述をすることになる。(中略)その対象は、他言語にとるか、同一言語の中での歴史的側面にとるか。前者であれば、他言語の語彙のいわゆる対照研究となるし、後者ならば、まさに語彙史研究をなすことになると考えられるということである。

田島毓堂「比較語彙研究の提案とその構想」(『名古屋大学文学部研究論集』文学43 1997)

ここでいう「比較」は比較言語学にいう「比較」とは異なる。比較言語学では、言語の歴史的研究に際して、特に同系にあると考えられるものについての比較をいうのが通例である。つまり、「比較」が同系の言語間のそれに限定されている。しかし、ここでいう比較語彙研究の比較は、その枠をとりはらったものである。つまり、同系統、異系統を問わず、文字どおり「比較する」ことをいう。

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

全体、文字どおり語の集合として語彙を扱う分野、なかでも、一言語の語彙全体を対象にするというような研究、その理論が田島毓堂氏によって提唱されている。その理論に基づいて異言語語彙の比較研究において個々の語についての考察だけでなく、「比較語彙論」的方法となる文字通りの―「**語彙研究自体、語の集合としての正真正銘の語彙を対象とした**」(田島 1998)語彙比較研究が可能になる。つまり、従来の語彙研究の領域に全く新しい構想のもとに出発した、新しい学問分野が導入されたのである。ここでいう「比較」は「比較語彙論」において示された使い方に従う。その理論に基づいて二言語間の比較研究の実践が期待されている。

日本語において個別語彙(テキスト語彙)② について大野　晋、樺島忠夫によって品詞別構成に特徴のあることが指摘された。『分類語彙表』を基本的根拠とする語彙構造の分析の方法としての意味構造分析③ は、その方法を阪倉篤義「万葉語彙の構造―(その一)名詞に

---

② 田島毓堂「語彙論の課題―集団規範と個別的実践―」(『名古屋大学国語国文学』71　1992.12)

個々の言語資料・言語作品―これはパロールの出来事である―の語彙(この語彙を「個別語彙」と称しておく)

田島毓堂「語彙論のための用語」(『名古屋大学文学部研究論集 130』1998)

個別的実現としての言語活動の結果を語彙として把握したものをいう。「テキスト語彙」というのもこれを指す。実際に存在するものである。各種文学作品や言語資料の語彙をいう。これを対象に語彙分析を進める場合は、使用率を問題とすることができる。いわば、パロール的なものである。

③ 阪倉篤義「万葉語彙の構造―(その一)名詞について―」(『万葉』34 1965)によってはじめられ、浅見　徹「古代の語彙Ⅱ」(『講座語彙史 3　語彙史』1971)によって継承された語彙分析法を「意味構造分析」と称しておく。語彙を形成する各単語に『分類語彙表』または、その前身の国立国語研究所報告にある語彙表によって、対応すると思われる語の意味番号を与え、語彙を意味分野別に分けてみる方法である。意味分野別の構成がどのようになっているかをみる分析法である。

ついて—」、浅見　徹「古代の語彙Ⅱ」、伊牟田経久「源氏物語名詞語彙の構造」、田島毓堂「語の単位—語彙論の見地から—」「栄花物語の語彙研究序説—和歌語彙について—」「源氏物語語彙意味コード試案—語彙の意味構造分析のための、意味コードの付け方—」などによって確立された。先学の理論及び方法を引き継いで、本研究では「日中基幹語彙」的なものを対象に、日中二言語の語彙構造を「比較語彙論」の方法で比較・検討する試みを行う。その類似点と相違点を明らかにしたいのである。従って、日中語彙の全体像(集団的規範の側面からの比較研究)を把握することを目指す。

1・2　目的

1・2・1 日中語彙の集団的規範の側面からの比較研究を試みる

日本語については、林大氏がまとめられた『分類語彙表』(国立国語研究所資料集 6、1964 年刊)がある。この『分類語彙表』は、雑誌 90 種に用いられた高使用率の約 7,000 語を中心にし、他の語彙資料をも参照して得られた計約 32,000 語を名詞類、動詞類、形容詞類、その他の4 類に分かち、分類コードを立てて分類したものである。コードの系統性その他に新しい工夫があり、日本語の最初の科学的な語彙表として、研究・教育の面で利用されることが多い。

中国では中国語の語彙についての研究は音韻・文法の研究よりかなり早くから行われている。所謂訓詁学である。その最も代表的なものとして西漢時代にできた『爾雅』は広く知られている。それから 1955 年頃まで、語彙の研究はずっと中心的な地位にあり、語彙の意味論

的な扱い方で数多くの成果を収めている。1983年に『同義詞詞林』④が作られた。もともと中国には『類書』(『太平御覧』・『永楽大典』のような)と呼ばれる百科事典的な内容をもつ書物が存在したが、約7万語を盛り込んだ意義分類語彙表が新しく登場したわけである。12大類、94中類、1,428小類で、3,925項の語群に分けられている。

上述のような研究成果を踏まえ、『分類語彙表』と『同義詞詞林』を直接比較して、「意味分野別日中語彙対照表」を作成すること、及びそれに対する意味構造分析ができればもっとも望ましいことである。しかし、合わせて10万以上の語の基礎作業を行うことは、限られた期間では不可能である。それゆえ、日中語彙のなかから所謂「基幹語彙」を選定し、日本語の『分類語彙表』に基づいてそれぞれ相応するコードを付けて、その上、意味構造分析を行う。それによって、日中語彙の基幹語彙における集団的規範の側面からの比較研究の試みをする。試みを通して、理論及び方法に新たに得たヒントのもとに、次第に、もっと大きい範囲(『分類語彙表』と『同義詞詞林』を直接比較することなど)での集団的規範の側面からの比較研究を目指す。

1・2・2 二言語語彙(ここでは日本語と中国語)の個々の語に同じ基準で相応するコード付けの方法を探求する

田島毓堂(1996)は次のように述べている。**“語彙の比較研究については(中略)意味構造分析が有効であると思う。意味コード付けはそのための作業であり、基本的には『分類語彙表』によりながら、その不備を補おうとするものである。そして、この比較語彙研究の方法**

---

④ 1983年に『同義詞詞林』(上海辞書出版社)が作られた。もともと中国には『類書』(『太平御覧』・『永楽大典』のような)と呼ばれる百科事典的な内容をもつ書物が存在したが、約7万語を盛り込んだ意義分類語彙表が新しく登場したわけである。12大類、94中類、1,428小類で、3,925項の語群に分けられている。(イギリスの『Lose分類語彙』、日本の『分類語彙表』、ロシアの『ロシア語同義詞典』、ドイツの『Duden詞典』を参考した)

は、他言語に適用すれば、いわゆる対照研究になるが、同一言語の歴史相に適用すれば、語彙史の記述になるのである。そのための方法こそが意味構造分析であり、その基礎はまさに各語に対する意味コード付けにあるのである"⑤。

比較語彙研究のために、田島毓堂氏は「単語コード」と「語素コード」⑥ を設定する方法を提唱した。そして、『分類語彙表』を基準とすることによって、個々の語に「単語コード」と「語素コード」をつける。田島毓堂氏はまた**"日本語以外の言語についても同様にコードを付けなければ、比較はできない。"**⑦と述べている。

比較語彙論の観点で二言語の語彙の比較研究を行うために、上述のように個々の語にその構成要素を分析するため、それぞれ単語コードと語素コードを付けて比較することになる。その意味で、本研究は、日本語と中国語とにどのように同じ基準でコードを付けるかについての一実践でもある。

---

⑤ 田島毓堂「意味コード付けに関する諸問題—異文化相互比較・理解をめざす比較語彙論のために—」1996(『開発・文化叢書 14　開発における文化と社会—「開発」における社会・法・文化・教育の変容—』名古屋大学大学院国際研究科　1996.3)

⑥ 田島毓堂「比較語彙論のために—調査単位とコード付け—」(『比較語彙研究の試み1』開発文化叢書 21　1997)

これまで、意味コードという用語を用いてきた。しかし、上記のごとく、文法質にまでコードを与える範囲を拡大すると、もはや、「意味」ということがふさわしくなくなる。(中略)これを「語素コード」と名づけたい。いままで「意味コード」と称しているものを全部ふくむ。それと共に、各単語の意味単位に付けるコードはLc1、Lc2、…とし、その単語(語彙調査の単位語)全体に付けるコードをLc0と称することとする。

⑦ 田島毓堂「意味コード付けに関する諸問題—異文化相互比較・理解をめざす比較語彙論のために—」1996(『開発文化叢書 14　開発における文化と社会—「開発」における社会・法・文化・教育の変容—』名古屋大学大学院国際研究科　1996.3)

1・2・3　語彙論を完全させる

従来の語彙研究の所謂――語彙の構成要素となる個々の語の究明、あるいは一定の分野における語彙の究明の蓄積から語彙の全体を把握する方向と逆に、今回の研究は語の集合という意味での「語彙総体論」⑧的な研究で、「語彙元素論」⑨に比べて千年以上の開きがある「語彙総体論」的研究を行うことによって、語彙論の両翼、「語彙元素論」と「語彙総体論」を揃えることになる。従って、語彙

---

⑧　田島毓堂「語彙論の課題―集団的規範と個別的実現―」(『名古屋大学国語国文学』71　1992.12)
田島毓堂「語彙論のための用語」(『名古屋大学文学部研究論集 130』1998)

総体としての語彙を対象とする分野である。語誌に比べて千年以上の開きがある。その研究の必要性に対する認識の欠如と、従って方法の欠如が進展を阻害していた。コンピューターはよき道具である。手段は整った。方法の開発と研究の意義の追求は急務である。体系論、分類・組織論、語彙史研究、比較語彙研究などはこの領域の研究テーマである。その基盤として、単位の設定、語彙調査、各種の基本語彙の選定が必要である。計量語彙論はその際の方法を提供するものである。これについても、個別的実現としての研究と、それを通じての集団的規範としての語彙の研究の面とがある。

⑨　田島毓堂「語彙論の課題―集団的規範と個別的実現―」(『名古屋大学国語国文学』71　1992.12)
田島毓堂「語彙論のための用語」(『名古屋大学文学部研究論集 130』1998)

〔語彙元素論〕は「語」を対象とする領域をいう。「語」の意味・用法・歴史・使用範囲等あらゆる問題を扱う。こういう、研究には「語誌」という用語が用意されているが、この語誌のほかに、語構成研究、語源研究も語彙元素論の守備範囲である。この成果は最終的に「辞書」に結集するであろう。語彙元素論について、集団的規範の問題として扱う場合と、個別的実現の問題として扱う場合とがある。

論を完全させるのである。

1・2・4 研究の成果を応用する

1　語彙はいろいろな視点によってその構造を分析することができる。どういう品詞の語がどういう割合でできているかという品詞別語彙構造、どういう語種の語がどういう割合でできているかという語種別語彙構造、どんな語がどの意味分類に属するかという意味分類別語彙構造などというように、その語彙をある観点から見て如何なる構造になっているかと分析することができる。語彙の品詞分布、語種別比率、層別カバー率、などはこのように一言語の語彙構造を明らかに表明するための徴標である。研究で得られたデータによって始めてそれぞれの語彙構造分析ができると言えよう。

2　語彙全体像を究明することに伴い、語彙の要素となる個々の語についての比較分析もその示差的特徴[10] を取り出すことなどに大いに役たつであろう。

1・3　方法

「比較語彙論」的研究はその蓄積がまだ浅い。その上異なる言語間の比較研究となるとその難しさを一層増す。これまで、『分類語彙

---

⑩　石綿敏雄　髙田　誠『対照言語学』p162

ある示差的な意味特徴を共有する語を取り出すという手順によって、それぞれの言語に相対応する語野を設定し、両方の言語について、そこに属するそれぞれの語を対立的に区別している意味特徴をとりだして、それらがどこで共通しているか、どこで違っているかを示そうというのが対照分析の目指すところである。すなわち、それぞれの言語でどのような意味特徴が示差的に働いているかを見ようとするのが対照分析だということができる。

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com